

紀の川流域委員会ニュース No.22

2012年2月6日(月)、第22回紀の川流域委員会が開かれました。



【第22回紀の川流域委員会の様子(アバローム紀の国)】

ニュース内容

議事骨子	P1
・紀の川水系河川整備計画(案)について	
.....	P2
・一般傍聴者からの意見	P3
・今後のスケジュールについて	P4
紀の川流域委員会について	P4

議事骨子

第22回紀の川流域委員会の議事骨子は、次のとおりです。

平成24年2月6日

第22回紀の川流域委員会 議事骨子

委員長 中川博次

第22回紀の川流域委員会は2月6日(月)アパローム紀の国 3F 孔雀の間において、全委員16名中11名の出席のもと実施された。



1. 「紀の川水系河川整備計画(案)」について

- ・紀の川水系河川整備計画（原案）に対する住民意見聴取が行われ、その結果と住民意見等を踏まえた内容について説明。

それらの説明に対する主な意見は以下の通り。

河川管理者回答

計画論について

- ・現在、水循環基本法の策定作業が進められており、今後、水政策の流れをP D C Aサイクルの中でフォローアップが必要。
- ・昨年の東日本大震災などのこれまでの設計概念を遙かに超えるような洪水や地震などに備えて対策を講じることが必要。

大滝ダム供用後について

- ・大滝ダムについては、下流の整備状況により当面暫定操作で運用することになるが、できるだけ早くダムの機能が発揮できるように、下流の整備が急務。
- ・大滝ダムの完成により、下流への土砂移動が制限されることから、河床変動の把握が大事。上下流の土砂の一体的管理に向けても取り組んでいきたい。

流域全体での取り組みについて

- ・関係自治体が被害軽減に向けて、都市計画や土地利用政策における土地利用の規制・誘導について認識を持って取り組むことが大事。
- ・流域の森林保全については、森林の保水力の重要さをもっと強く記載すべき。
森林保全に向けた取り組みの中には、森林の保水力についても含まれていると認識しており、今後、実施の中で具体的に取り組んで参りたい。
- ・流域には、国の管理区間も県の管理区間もある中で、治水、利水や環境などについて、連携することが大事。
紀の川では、国が管理する直轄区間と県等が管理する指定区間における河川整備計画について相互に整合を図っており、今後、両者がより一層連携しながら取り組んでいきたい。

環境（生態系への配慮等）について

- ・河道掘削については、大規模な工事となるため、環境への影響を配慮して実施することが必要。
- ・水循環実態調査については、量的な把握だけでなく、質的な面についても把握する事が大事。
- ・堤防の除草や河道内樹木の伐採後の処理について、新たな処理方法を検討することが大事。
環境面に配慮しつつ刈り取った草などのリサイクルについて、住民やN P Oの方々との連携によってコスト縮減に努めたい。

- ・河道内樹木の伐採については、治水面からだけでなく環境面の観点から実施前に有識者の意見を聴くなど生態系の保全に配慮すべき。

実施にあたっては、単に治水面だけでなく、生物的・植物的に良好な河川環境を保全するため、様々な調査や意見を踏まえ取り組んで参りたい。



- ・本委員会は、紀の川水系河川整備計画を策定するにあたり平成13年に設置され、22回の審議を重ねてきた。本日、委員会として、紀の川水系河川整備計画（案）について了承した。

2. 一般傍聴者からの意見

一般傍聴者からの意見は以下の通り。

- ・大滝ダムについては、以前から環境の問題などに問題視している。また、今回の熊野川水系の台風被害を見ていると、ダムや立派な堤防があっても大丈夫、安心とは言えない。
- ・大滝ダムが無くても紀の川の治水は安全だと思っているが、仮にダムを肯定したとしても、急いで運用を始めることには疑問がある。ダムの安全性が確実に確保された後、大滝ダムの運用を始めるべき。運用するのであれば、住民の立場を十分理解した上で、安全な運用を目指すべき。

3. 今度のスケジュールについて

今度のスケジュールについて、河川管理者から説明があった。
主な内容は以下の通り。

今後、和歌山県知事、奈良県知事に意見を頂くとともに、関係行政機関との協議を行った上で河川整備計画を策定する。

この議事骨子は、委員会終了後に速やかに審議内容が公開できる様に取りまとめたものです。従って、今後議事の詳録を作成する上において、修正等が加わることがありますがご了承下さい。

紀の川流域委員会について

設置の目的

平成9年の河川法改正に伴い、これまでの「治水」「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」が法の目的に追加されました。また、これまでの「工事实施基本計画」に代わって、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「河川整備計画」が策定されることになり、後者については、地方公共団体の長、地域住民等の意見を反映する手続きが導入されました。

「紀の川流域委員会」は、紀の川において「河川整備計画」について学識経験を有する者の意見を聴く場として、平成13年6月7日に近畿地方整備局によって設置されました。

委員会資料について

紙面の都合上、ニュースレターでは、委員会で使用した資料の掲載を省略していますが、ホームページで公開しております。

アドレスは、以下のとおりです。

URL : <http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/>



紀の川流域委員会の前回までの開催状況

2012.2.6現在

年 月 日	会 議 名	内 容
2001.6.7	紀の川流域委員会設立会 第1回紀の川流域委員会	・規約の策定 ・23名の委員により発足 ・委員長に中川委員決定 ・委員会の情報公開、運営方針、今後の進め方について審議
2001.7.18	第2回紀の川流域委員会	・委員長代理に小田委員決定 ・各委員から「紀の川とのかかわり等」 ・紀の川の現状説明
2001.9.6	第3回紀の川流域委員会 (現地視察)	・現地視察 【紀の川本川(河口から五條市)】
2001.9.12	第4回紀の川流域委員会 (現地視察)	・現地視察 【大滝ダム・紀伊丹生川ダム】
2001.11.2	第5回紀の川流域委員会	・紀の川の現状説明 ・第3・4回現地視察に関する意見交換 ・情報公開方法の改訂について
2001.12.20	第6回紀の川流域委員会	・紀の川の現状説明 ・各委員からの質問に対する回答
2002.3.2	第7回紀の川流域委員会	・紀の川の河川整備計画について ・各委員からの質問等について
2002.4.25	第8回紀の川流域委員会	・紀の川の河川整備計画について(目標流量の検討)
2002.6.12	第9回紀の川流域委員会	・紀伊丹生川ダム建設計画について(報告) ・紀の川流域委員会勉強会運営方針(案) ・紀の川の河川整備計画について
2002.8.9	第10回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について(治水の現状と対策案) ・紀の川流域委員会勉強会の報告
2002.9.27	第11回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について(治水と環境対策) ・紀の川をとりまく環境について
2002.11.18	第12回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について(目標流量の設定) ・紀の川河川整備計画について(遊水地の検討)
2003.1.20	第13回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について (委員から出された意見等について) ・利水について
2003.3.20	第14回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について(治水対策の課題と対応策) ・第5回紀の川流域委員会勉強会の報告
2003.6.2	第15回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画立案に向けての考え方について(治水編) ・大滝ダムの状況について
2003.7.28	第16回紀の川流域委員会	・関係住民の意見の聴取方法について ・岩出町の樹木について(報告) ・大滝ダムの状況について(報告)
2003.9.18	第17回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画立案に向けての考え方について 【環境編】【利水編】【維持管理・利用編】
2003.11.19	第18回紀の川流域委員会	・今後の紀の川の河川整備に向けた説明資料 ・関係住民の意見の聴取について
2004.3.9	第19回紀の川流域委員会	・今後の紀の川の河川整備に向けた説明資料【第2稿】 ・大滝ダムに関する情報提供
2004.6.7	紀の川流域委員会審議報告	・紀の川流域委員会審議報告 ・紀の川の河川整備に向けての委員会提言
2006.11.22	第20回紀の川流域委員会	・今後の紀の川の河川整備に向けた説明資料【第2稿】からの変更方針
2011.10.27	第21回紀の川流域委員会	・紀の川水系河川整備計画(原案)について

紀の川流域委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

No.	氏名	対象分野	所属等
1	井伊 博行	治水・利水・環境(治水、水資源、水質)	和歌山大学システム工学部 教授
2	池淵 周一	治水・利水(水資源、水文循環工学、渇水災害、水文学)	京都大学 名誉教授
3	石橋 貞男	人文(経済)	和歌山大学経済学部 教授
4	今中 佳春	地域の特性に詳しい委員	元高等学校教諭
5	岩橋 健	人文(法律)	岩橋健法律事務所 弁護士
6	大谷 誠一	地域の特性に詳しい委員	五條青年会議所 OB
7	小川 和子	地域の特性に詳しい委員	玉川峡を守る会
8	神吉 紀世子	利水・人文(親水、水文化、地域、まちづくり)	京都大学大学院工学研究科 教授
9	旅田 一衛	利水(水道原水)	和歌山市水道局工務部水質試験課長
10	玉井 済夫	環境(哺乳類・爬虫類・両生類)	和歌山県自然環境研究会
11	土岐 頼三郎	環境(鳥類)	元(財)日本野鳥の会和歌山県支部長 日本貝類学会会員
12	中川 博次	治水・環境(河川工学、河床変動、水質)	立命館大学理工学部 客員教授 京都大学 名誉教授
13	古田 皓	地域の特性に詳しい委員	元テレビ和歌山取締役報道局長
14	的場 績	環境(陸上昆虫類)	和歌山県立自然博物館専門員
15	三野 徹	利水(農業)	鳥取環境大学環境情報学部 教授 京都大学 名誉教授
16	湯崎 真梨子	地域の特性に詳しい委員	和歌山大学地域創造支援機構 地域創造支援マネージャー

対象分野欄の()は委員の専門を示しています。

編集・発行

紀の川流域委員会

お問い合わせ先

紀の川流域委員会 庶務

(国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 調査第一課)

〒640-8227 和歌山市西汀丁16番

TEL : 073 - 402 - 0265

FAX : 073 - 427 - 1859

E-mail : kino-ank@kkcr.mlit.go.jp

URL : <http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/>